私の被爆体験記

武田邦雄

昭和十五年四月一日、石川県金沢市の第九師団輜重（しじゅう）兵第九連隊第三中隊（自動車中隊）の四班に入営しました。

同年六月に一期の検閲を終わり、戦友とともに広島の宇品港をあとにして、待望の中国大陸の上海に到着しました。それからが大変でした。第二十一兵站（へいたん）自動車隊に転属になり、七月に編成替えがあり、華中派遣軍の自動車第二十九連隊材料廠（しょう）に編入になり、幾多の作戦に参加しました。

十七年二月、技術下士官に任官して一個隊の修理班長となり、連隊の参加作戦に従い華中の各地を転々として武器の整備をしておりました。

二十年六月一日、突然命令があり、本土防衛のため広島市の宇品港にある陸軍船舶隊本部にわれわれ戦友四人が転属になり、早急に出発せよとのことでありました。六月三日、上海を後にして列車で南京、華北、韓国のソウルを経由し、六月六日に広島の陸軍船舶本部に無事到着しました。

ただちに向かい側の金輪島の船舶修理部に行くよう命ぜられ、小型船舶に乗り、戦友と日本本土は大変な状況になっていると話しながら、約五十分の乗船で目的地に到着しました。

私は第三中隊付になり、ほかの三人の戦友は第一中隊、第四中隊、第五中隊とばらばらになり、翌日から連日、地下の工場で船舶の修理と部品の製作をしていました。この工場にも若い女子挺身（ていしん）隊員として学生さんがたくさん勤務しおりました。

内地勤務になり二ヵ月がすぎ、大分仕事のことも分かってきたと思う暇もなく、八月六日早朝、空襲警報のサイレンが鳴り、すぐに警報解除になり、居室で休憩していると、広島の街の方向から地響きのように大きな爆音が聞こえると同時に、窓ガラス戸が表に吹き飛んでしまいました。

びっくりして表に飛び出すと、広